

●●● 「学ぶ楽しさ」を実感できる授業を創る ●●●

教育庁指導部 義務教育指導課長 中嶋 富美代

令和3年度のメール・マガジン「Scrum」の最終号をお届けします。今年度は、新たな都の学力調査を活用した学力向上施策、就学前教育と小学校教育との円滑な接続を図るための事業、道徳教育や理数教育、外国語教育の充実に向けた取組等に関する情報を発信してまいりました。感染予防と学びの継続との両立に日々御尽力いただいている中、今年度も「Scrum」を御覧いただいた皆様に、心から御礼申し上げます。

さて、この1年間、本欄を通して「学び」に関する事柄について述べてまいりました。新学習指導要領が小・中学校ともに全面実施となった今年度、その理念である「資質・能力の三つの柱」をバランスよく育むために新たに内容を変えた都の学力調査のねらいや、子供たちが主体的な学び手となるために必要な学習の進め方の振り返り等について、各号で触れてまいりました。コロナ禍における教育活動に制限がある中ですが、学校の授業等を通して「分かる喜び」「できる喜び」「分かり合える喜び」を経験し積み重ねていくことで、子供たちが「学ぶ楽しさ」を実感し、社会人となっても生涯に渡って学び続ける人に成長していくのだと、改めて感じております。全ての学校で、そのような「学ぶ楽しさ」を感じることができる授業改善を実施していくことが必要であり、そのための支援策を義務教育指導課として進めていきたいと考えております。

平成23年度から発行しているこの「Scrum」の名前には、「各学校や区市町村教育委員会と東京都教育委員会とがしっかり連携し、一人一人の児童・生徒の学力向上を図るための取組を行っていきたい」との想いが込められています。この創刊当時の想いをしっかりと引き継ぎ、各学校の取組に役立つ授業改善や学習指導に関わる先進情報等を積極的に発信してまいりますので、今後どうぞよろしくお願いいたします。

掲載内容

- 「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の更なる活用に向けて
- 道徳教育の充実に向けて
- 外国語科における指導と評価の一体化を目指して〈実践事例〉
- 理数教育の充実に向けて
- 環境教育の充実に向けて
- 就学前教育と小学校教育との円滑な接続に向けた取組

東京都教育委員会のホームページ内「学びの支援サイト」

これまでに発行されたメール・マガジン「スクラム」は、こちらに掲載しています。



(URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/learning_support.html)

★ 本メール・マガジンの配信を希望する方は、件名に「メール・マガジン配信希望」、本文に所属・氏名を御入力いただき、S9000024@section.metro.tokyo.jp へメールを御送信ください。

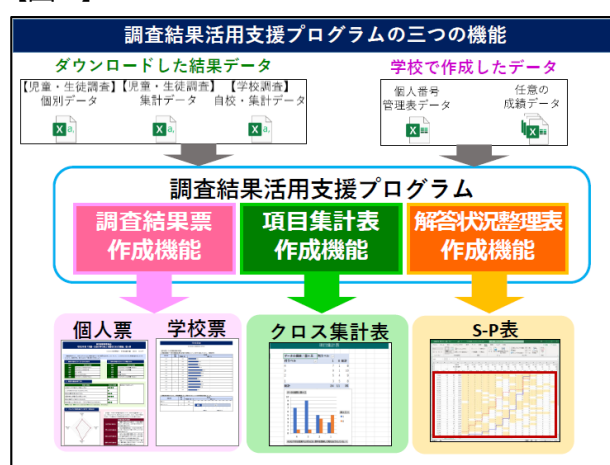
「児童・生徒の学力向上を図るための調査」の更なる活用に向けて

前号「Scrum 第 91 号」では、令和 3 年秋に実施した「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（以下、「都調査」という。）について、「個人票」や「学校票」の作成・活用について紹介しました。実際に、三者面談等で「個人票」を活用することで、児童・生徒一人一人の学習の進め方の課題について指導・助言したり、学校だよりに「学校票」の一部を掲載することで、学校や学年の課題を共有したりする等、具体的な取組を進めている学校もあります。

今号では、都調査の結果と全国学力・学習状況調査（以下、「国調査」という。）の結果等との相関関係などを分析できる「調査結果活用支援プログラム」（各学校がダウンロードした本プログラムは、「活用支援ツール」という名称です。）の具体的な活用方法について紹介します。自校の課題に沿って都調査や国調査の結果等を活用し、次年度に向けた日々の授業改善を推進するとともに、三つの資質・能力の確実な育成に取り組んでいただきたいと思います。

調査結果活用支援プログラムは、【図 1】のように、「調査結果票作成機能」、「項目集計表作成機能」、「解答状況整理表作成機能」の三つのプログラムによって構成されています。このプログラムに学校管理システムからダウンロードした結果データと学校で作成した個人番号管理表などのデータを読み込ませることで、調査結果の分析のための帳票を作成することができます。

【図 1】



1 調査結果票作成機能

調査結果票作成機能を使うと、**個人票**と**学校票**を作成することができます。

個人票では、児童・生徒が自らの回答を振り返ることで、自分の学習の進め方についての特徴を知り、今後どのようなことに気を付けて学習を進めるとよいのかを考えることができます。

◆詳細は「Scrum 第 91 号」参照

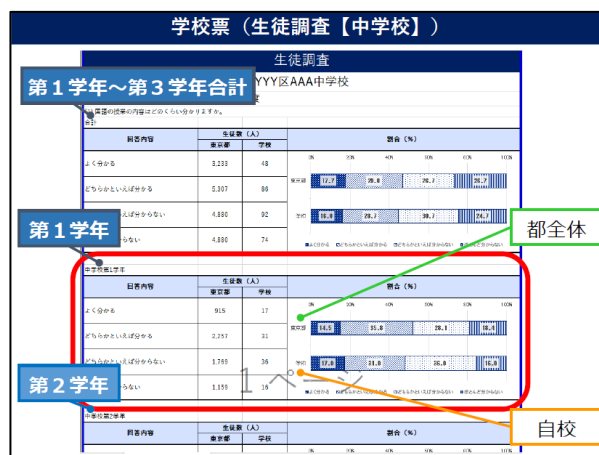
https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/files/school_teacher/scrum91.pdf

学校票では、【図 2】のように、自校と都の調査結果を次の視点で比較できます。

- ・ 全学年合計の結果
- ・ 学年別の結果
- ・ 自校の各学年・学級と都の同学年の結果

学校票は、学校評価や、次年度の教育課程編成などの際、参考資料として活用することができます。

【図 2】



調査結果活用支援プログラムの操作方法の詳細につきましては、教育委員会及び学校管理システムからダウンロードした「活用支援ツール利用マニュアル」①から④を御確認ください。

2 項目集計表作成機能

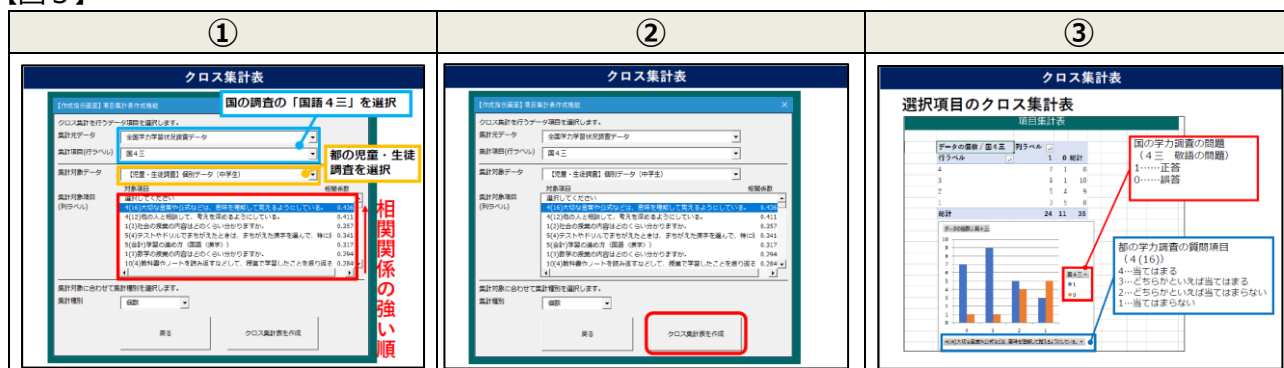
項目集計表作成機能を使うと、**クロス集計表**等を作成することができます。都調査の調査項目や国調査、定期考査の問題等から、それぞれ項目を一つずつ選択することで、選んだ二つの項目についてクロス集計を行うことができます。

【例：都調査の児童・生徒調査の調査項目と国調査（中学校）「国語4三」のクロス集計（【図3】参照）】

- (1) 項目集計表作成機能を用いて、国調査の「国語4三」の問題と都調査の「児童・生徒調査」を選択すると、国調査の「国語4三」と相関関係の強い順に、児童・生徒調査の項目が自動的に表示される。
- (2) ①の赤枠の部分から、「国語4三」との相関関係を確かめたい項目（下図の例では、「4（16）大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。」）を選択し、「クロス集計表を作成」のボタンを押す。
- (3) クロス集計表（③）が作成される。この表から、都調査の「4（16）大切な言葉や公式などは、意味を理解して覚えるようにしている。」に肯定的な回答をしている生徒は、否定的な回答をしている生徒よりも国調査「国語4三」の正答数が多いことが分かる。

このように、都調査の結果と国調査の結果等とを関連付けて分析する際に活用することができるツールです。クロス集計表は、授業改善に向けたOJTや授業研究等を行う際の児童・生徒の実態分析等に生かすことができます。

【図3】



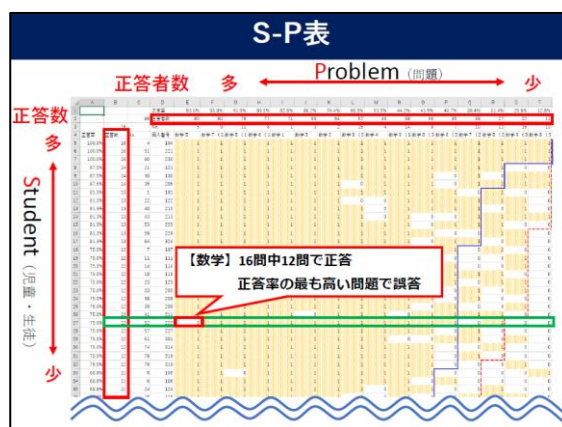
3 解答状況整理表作成機能

解答状況整理表作成機能を使うと、**S-P表**を作成することができます。

S-P表の「S」はStudentの「S」、「P」はProblemの「P」を表しています。S-P表では、【図4】のように、正答数の多い児童・生徒（Student）が上から下に、正答者数の多い問題（Problem）が左から右に順に並べられています。学年や学級全体の課題の傾向や、個々の児童・生徒が理解していない可能性が高い設問などを見いだすことができるので、平均正答率に着目するだけでは捉えることができないことを把握することができます。

例えば、【図4】の緑の枠で囲んだ生徒に着目すると、16問中12問正答している生徒にもかかわらず、最も正答者数の多い問題で誤答しています。この場合、ケアレスミスで間違えた、もしくは、他の問題に比べてこの問題が極端に苦手である可能性が高いことが考えられます。

他にも、東京ベーシック・ドリルの結果や単元テスト等の結果を、問題ごとに正答を「1」、誤答を「0」として入力したデータを作成すれば、この機能を用いてS-P表を作成することができます。S-P表を活用することで、学校で実施しているテスト等の結果分析を更に深めることができます。



個人票、学校票、クロス集計表、S-P表などを活用し、指導の充実や組織的な授業改善に役立て、児童・生徒の学力向上に関する**継続的な検証改善サイクル**を確立していきましょう。

保護者向け資料

「保護者の皆さんへ お子さんの学力向上のために大切なこと」

(令和4年3月)

これからの社会が、どんなに変化して予測困難になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。そして、明るい未来を、共に創っていききたい。

このような願いが込められた学習指導要領の趣旨を実現するために、東京都教育委員会では、小学校第4学年から中学校第3学年までの児童・生徒を対象に「児童・生徒の学力向上を図るための調査」を実施し、児童・生徒の学習意欲や学習の進め方など、学びに向かう力等に関する意識を把握し、分析しています。

本資料では、調査結果を踏まえ、児童・生徒の学習や生活について家庭で取り組んでいただきたいことを紹介しています。

保護者会や面談等で御活用いただき、学校と家庭で協力し、児童・生徒の学力向上への一層の御支援をお願いいたします。



【主な内容】

- 1 個人票の見方
- 2 授業の理解と関係の深い学習の進め方
- 3 お子さんの学習を家庭で支援する取組例（国語・算数）
- 4 お子さんとの会話を充実させるポイント

本資料は、令和4年3月に公開予定です。保護者会や三者面談等で御活用ください。

○「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(東京都教育委員会)

URL : <https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/parent.html>

学習支援コンテンツ等を活用した学習の充実について

新型コロナウイルス感染症対策として、各学校では、地域や学校の実態を踏まえ、授業をオンラインで配信したり、児童・生徒にウェブ上の様々な学習コンテンツで学習させたりする等、工夫した取組を進めていると思います。こうした取組を計画する際の参考としていただくために、下記の資料を作成し、ホームページに掲載しました。是非御活用ください。

【作成資料】

- 1 小学校低学年版 家庭学習「時間割」(例)
- 2 小学校中・高学年版 家庭学習「時間割」(例)
- 3 中学校版 家庭学習「時間割」(例)
- 4 小・中学生が活用できる学習支援コンテンツ等一覧



URL https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/how_proceed.html

道徳教育の充実に向けて

子供たちに「よりよく生きるための基盤となる道徳性」を着実に養っていくには、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を組織的・計画的に推進するとともに、その要である道徳科の学習指導を充実させていくことが大切です。

ここでは、今年度開催した「特別の教科 道徳」授業力向上セミナー（小学校）で公開した授業の概要を紹介するとともに、作成した資料等の活用について案内します。資料は東京都教職員研修センターウェブページの教員専用ページ内に掲載していますので、是非、御活用ください。

令和3年度「特別の教科 道徳」授業力向上セミナー（小学校） 公開授業の概要

小学校第1学年

【主題名】「ぼくのよいところ わたしのよいところ」（内容項目 A 個性の伸長）

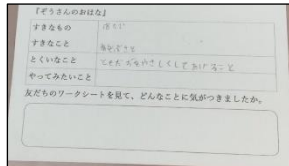
【ねらい】「ぞうさんの おはな」の教材を通して自分にもよさがあることに気付かせ、そのよさを伸ばしていこうとする心情を育む。

【教材名】「ぞうさんの おはな」（令和3年度東京都道徳教育教材集 小学校1・2年生版「心あかるく」）

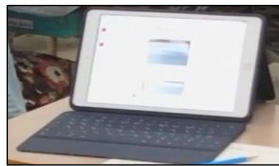
【主な工夫点】学習者用ICT端末を活用して意見交流を行うことで、児童相互の考えを深められるようにした。
（第1学年児童によるICT端末の使用であることを考慮し、直接、端末に考えを記入させるのではなく、紙のワークシートに記入させ、その画像を端末上で共有した。）

〈意見交流の流れ〉

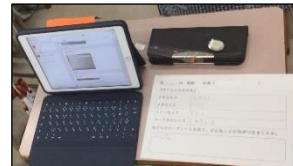
①紙のワークシートに考えを記入



②ワークシート画像を端末で共有



③気付いたことをワークシートに追記



【成果】話し合い活動の設定が制限された状況下でも、端末を通して短時間で多くの友達の考えにふれることができ、自分や友達のよさに気付いたり、そのよさを認め合ったりすることでねらいに迫ることができた。

小学校第6学年

【主題名】「伝統を繋ぐ ー道ー」（内容項目 C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度）

【ねらい】我が国や郷土の伝統と文化を大切にし、国や郷土を愛する心情を育てる。

【教材名】「人間をつくる道 ー剣道ー」（「私たちの道徳 小学校5・6年版」文部科学省）

【主な工夫点】各教科等の学習との関連をもたせた指導の工夫を行うことで、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」の内容項目について、効果的に考えを深められるようにした。

〈各教科等の学習と関連をもたせた指導の工夫〉

道徳科の学習	各教科等との学習		
「人間をつくる道ー剣道ー」 ・日本の伝統的な武道である剣道について扱った教材から、伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度の内容について学習した。	【国語】 「伝統文化を楽しもう」 ・狂言師を学校に招き、 実際に狂言を見たり体験したりすることを通して伝統文化について学習した。	【総合的な学習の時間】 「世界とつながろう」 ・オリンピック・パラリンピック教育の一環で、 様々な国の調べ学習を行い、国際理解を深めた。	【体育的行事】 「表現発表会」 ・ 「心を繋ぐ、絆を繋ぐ、伝統を繋ぐ」を合言葉に、日頃の体育学習の成果について発表した。

【成果】道徳科と各教科等に関連付け、意図的・計画的に我が国の伝統や文化について話題にしたり、直接体験したりする学習機会を増やしたことで、実感を伴いながらねらいに迫ることができた。

資料活用の御案内

以下の資料を東京都教職員研修センターウェブページの教員専用ページ内に掲載しています。御活用ください。

○ 令和3年度「特別の教科 道徳」授業力向上セミナー資料



○ 道徳教育カリキュラム・マネジメントガイドブック



○ 道徳科校内研修ノート



外国語科における指導と評価の一体化を目指して〈実践事例〉

各学校においては、小・中学校学習指導要領の趣旨を実現するため、授業の改善と評価の改善を両輪として、児童・生徒の学習状況を的確に捉え、その結果を児童・生徒の学習改善や教師の指導改善につなげる、いわゆる「指導と評価の一体化」を図っていく必要があります。

そこで、東京都教育委員会では、外国語科における「指導と評価の一体化」の実現に向けて「外国語科における指導と評価の一体化を目指して〈実践事例〉(仮)」を作成し、3月下旬に区市町村教育委員会を通じて都内公立小・中学校等に配布する予定です。本資料では、どのように単元を構成し、指導と評価を行っていくか、その基本的な考え方や、五つの領域ごとの指導と評価の事例を掲載しています。外国語科における「指導と評価の一体化」の推進に、各学校において是非御活用ください。

掲載内容

○ 「指導と評価の一体化」に向けた単元構成

- I 単元の目標の設定について
- II 単元の評価規準の設定について
- III 単元の指導と評価の計画について

○ 中学校事例

- ・「読むこと」の指導と評価の事例
- ・「話すこと [発表]」の指導と評価の事例
- ・「書くこと」の指導と評価の事例

○ 小学校事例

- ・「話すこと [やり取り]」の指導と評価の事例

○ 「指導と評価の一体化」に向けた改善のポイント

- ・指導の改善のポイント
- ・評価の改善のポイント

○ 参考資料一覧

「指導と評価の一体化」に向けて、「指導の改善のポイント」、「評価の改善のポイント」を整理して示しています。

指導の改善のポイント (例)

コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確に設定する。

① 指導の改善のポイント

ポイント1 コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確に設定する。

「何のために、どのような場面で、誰に、何を」伝えるかが明確になることで、児童・生徒が思考・判断し、伝えたい内容と使用する英語表現を決めることができます。「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けて、「目的や場面、状況など」を明確にし、児童・生徒に示しましょう。

「コミュニケーションの目的や場面、状況など」の例
英語の授業で、初めて会うALTの先生に、自分のことをよく分かってもらえるよう、例を伝えたらよいかを考えて自己紹介をする。(中学校第1学年1学期の場面)

評価の改善のポイント (例)

「表現の領域」・「理解の領域」と3観点との関係を理解する。

② 評価の改善のポイント

ポイント1 「表現の領域」・「理解の領域」と3観点との関係を理解する。

単元末の言語活動、パフォーマンステストやバーバーストなど、「記録に残す評価」の場面においては、以下に示す「表現の領域」・「理解の領域」と3観点との関係を踏まえた上で評価を行うことが重要です。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英語使用の正しさや評価	表現内容の適切さを評価	基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価

※基本的に、1回のパフォーマンステスト等において3観点を一体的に評価します。

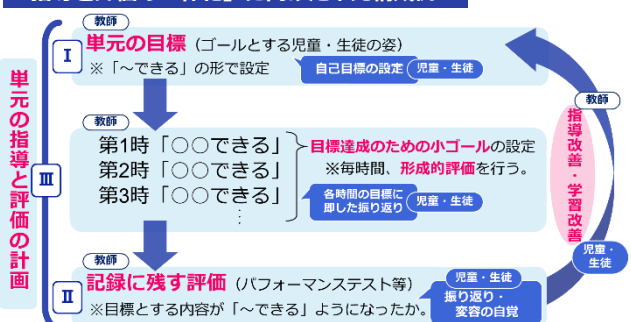
「理解の領域」(「聞くこと」「読むこと」と3観点との関係 (中学校の場合))

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
英文の内容を理解できたり/読み取っているかを評価	必要な情報、懸念、意点を捉えているかを評価	基本的に「思考・判断・表現」と一体的に評価

※基本的に、1回のバーバースト等において「知識・技能」と「思考・判断・表現」は別々に評価します。

単元構成の基本について紹介した後、単元の目標の設定、単元の評価規準の設定、単元の指導と評価の計画の作成について順に紹介する構成になっています。

「指導と評価の一体化」に向けた単元構成例



実際の指導と評価の事例を通じて、単元の目標や単元の評価規準、単元の指導と評価の計画を紹介しています。加えて、あらかじめ設定してある単元末や後日に実施する「記録に残す評価」の場面を取り上げ、児童・生徒の学習状況をどのように評価するか、例を示しています。

紙面例

単元の目標

単元の評価規準

単元の指導と評価の計画

※各時間の目標や評価場面を掲載

評価場面の事例紹介

◆ 学習評価については、以下の資料も併せて御覧ください。

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (小学校外国語・外国語活動)』
(国立教育政策研究所 令和2年3月)



『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (中学校外国語)』
(国立教育政策研究所 令和2年3月)



◆ 外国語科における指導と評価については、文部科学省のYouTube mexchannelにも多くの動画資料が掲載されています。



理数教育の充実に向けて

東京都教育委員会では、理科・数学等に興味・関心をもつ児童・生徒の裾野を広げ、理数分野における資質・能力を伸ばす一貫した取組を推進し、科学技術で世界をリードする人材を育成するため、理数教育の充実を図っています。ここでは、今年度の「東京都小学生科学展」「中学生科学コンテスト」「東京ジュニア科学塾」について紹介します。

令和3年度 東京都小学生科学展

○東京都小学生科学展とは

全都の理数好きの小学生が、自ら決めたテーマについて深く研究することで理数についての資質・能力を高め、その成果を発表することを通して、理数好きの児童を更に増やすことを目的としています。平成27年度から開催し、今年度で7回目を迎えます。

○今年度の概要

会場 日本科学未来館（江東区青海二丁目3番6号）
公開期間 令和4年1月7日（金曜日）から同月10日（月曜日）まで（4日間）
※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から口頭発表は中止
出品数 64点（各区市町村及び都立特別支援学校2校からそれぞれ代表1点ずつ）
来場者数 1,137人

○来場者の感想・意見

- ・それぞれ個性あふれる疑問に対して、様々な方法で解決しようとしている姿とその内容に感心した。
- ・子供たちの興味の幅広さや豊かさに驚かされ、子供たちの可能性を伸ばすためにできることを考えさせられた。
- ・学識経験者から一人一人へのコメントが大変ありがたかった。児童の励みになる。
- ・このような機会が、子供たちとその周りの人たちの理科、科学への関心を高め、子供たちの将来に良い影響を及ぼすと信じている。



○令和3年度の出品作品は、ホームページに掲載しています。研究の参考に御活用ください。

https://www.kyoiku.metro.tokyo.lg.jp/school/content/science_exhibition.html

令和3年度 中学生科学コンテスト

○中学生科学コンテストとは

東京都内の中学校（義務教育学校後期課程、中等教育学校前期課程、特別支援学校中学部を含む。）に在籍する生徒が理科・数学等の能力を競い合い切磋琢磨する場を提供することで、理科・数学等に対する意欲・能力を更に伸ばし、科学好きの生徒の裾野を広げることを目的としています。

○今年度の開催概要

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年9月20日（月曜日・祝日）に予定していた実技競技は中止とし、筆記競技を各学校の監督下で実施しました。

参加チーム 157チーム（3人一組）471人

※申込総数 237チーム（感染症対策として、1校4チームまでに制限）

実施種目 理科・数学等に関わる筆記競技（70分間）

※都道府県ごとに分散開催された「第9回科学の甲子園ジュニア全国大会」に、東京都知事賞受賞チームの筑波大学附属駒場中学校と東京都立小石川中等教育学校との連合チームが東京都代表として出場し、見事、優勝しました。

令和3年度 東京ジュニア科学塾

○東京ジュニア科学塾とは

東京都内の公立小学校の6年生、公立中学校の1年生と2年生が、科学に関する専門家等による指導を受けることができるプログラムです。理科・数学等に対する意欲・能力を更に伸ばし、科学好きの児童・生徒を増やすため、平成25年度から実施しています。

○今年度の概要

第1回 令和3年10月24日(日曜日)「Hayabusa2 Returns～『はやぶさ2』が還ってきた～」

元NEC航空宇宙システム株式会社 小笠原 雅弘 氏

第2回 令和3年12月12日(日曜日)「なぜ混むの?～渋滞の科学と解消方法～」

東京大学先端科学技術研究センター 教授 西成 活裕 氏

第3回 令和4年2月6日(日曜日)「地球の危機を救えるか?!再生可能エネルギーを詳しく知ろう」

東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授 飯田 誠 氏

○参加者の意見・感想

- ・私は理科が好きなので、参加しました。宇宙を調査することの大変さや面白さがよく分かりました。(第1回)
- ・蟻の行列から渋滞を解消するヒントを見つけたことに驚きました。普段生活しているいろいろな場面で役に立ちそうなお話で面白かったです。(第2回)
- ・今世界でたくさん問題が起こっていて、それらを解決するためにSDGsがあり、専門家の皆さんが太陽光パネルなどのアイデアを出していることが分かりました。自分にできることを実践していきたいと思います。(第3回)



【第2回 東京ジュニア科学塾より】

東京都小学生科学展、中学生科学コンテスト、東京ジュニア科学塾は、令和4年度も開催予定です。次年度の開催については、学校やホームページ等を通じて、お知らせいたします。

環境教育の充実に向けて

○環境教育掲示用教材の補助資料

児童・生徒の持続可能な社会を構築していくための資質・能力の更なる育成を図ることを目的として、令和2年度に作成した環境教育掲示用教材の内容をより深めるための補助資料を作成いたしました。発達段階に応じた内容となるよう、小学校低学年版、中学年版、高学年版、中学校版の4種類を作成しています。

- ・指導資料・ワークシートでは、一人1台端末で活用できる授業展開を提案しています。
- ・補助資料の内容ごとに児童・生徒に電子データで配布できるよう、教材等も掲載しております。

令和4年2月に環境教育掲示用教材3号の補助資料を配布しました

補助資料の一例(小学校高学年版)



補助資料



ワークシート



略案



教材

※東京都教育委員会ホームページで、本補助資料を公開しています。環境教育指導資料及び環境教育掲示用教材も公開しておりますので、併せて御活用ください。

補助資料
本資料



環境教育指導資料
教師用



環境教育掲示用教材
児童・生徒・教師用



就学前教育と小学校教育との円滑な接続に向けた取組

東京都教育庁指導部義務教育指導課の YouTube チャンネルにて、 就学前教育と小学校教育との接続に関する内容を配信しています

今年度は、令和3年度就学前教育カンファレンス及び令和3年度幼稚園教育研究協議会での実践発表や講演内容など、計7本の動画を作成し、配信をしました。園内、校内での研修にも御活用いただける内容となっております。右の二次元コードより入り、是非御覧ください。

◆ 令和3年度就学前教育カンファレンス

- ・ モデル地区である荒川区、福生市における、就学前教育と小学校教育の円滑な接続に関する取組（中間報告）
- ・ 高知学園大学教授 山下 文一 先生による講演



◆ 令和3年度幼稚園教育研究協議会

- ・ 目黒区立みどりがおかこども園の取組
実践事例① カリキュラムマネジメントと関連付けながら実施する学校評価について
実践事例② 幼稚園と小学校の円滑な接続を図るための方法と工夫について
- ・ 武蔵野大学准教授 箕輪 潤子 先生による講演

就学前教育と小学校教育の円滑な接続に関するモデル地区の取組

荒川区：5歳児から小学校低学年までをひとまとまりとした教育課程の研究・開発及び検証

◆ 町屋幼稚園・第七峡田小学校における取組

- ・ 指導計画を基に保育を行い、幼児を小学校へ引き継ぐための見取表の作成や実践事例の蓄積を行ってきました。また、幼児・児童の共有スペースである「ななはけラボ」を活用した保育・学習を実施してきました。



「ななはけラボ」を活用した学習

◆ 荒川区就学前教育と小学校教育との一層の円滑な接続を図るための教育課程の普及・検討委員会

- ・ 令和元年度より荒川区で作成・改善を図ってきた「5歳児から小学校第2学年までの3年間でひとまとまりとした教育課程」を基に、実践授業を行い、協議をしました。

福生市：学びに向かう力の育成に関する内容の研究・開発及び検証

◆ 幼保小連携推進委員会

- ・ 「学びに向かう力」を視点として、就学前施設での活動事例や生活科の実践事例について協議会を行いました。
- ・ 「就学前教育に関する共通理解」をテーマに研修会を実施しました。



研修会の様子

◆ スタートカリキュラムの参観会

- ・ 就学前施設の保育者が、園児が入学する小学校を参観して情報交換や協議会を行いました。

国立市：教育と福祉の連携による幼児の資質・能力の育成に関する研究・開発及び検証

◆ 国立市幼保小連携推進委員会

- ・ 入学当初の授業参観週間及び就学前施設への保育参観を実施しました。
- ・ 令和4年度のスタートカリキュラムの編成に向けた協議会を実施しました。
- ・ 令和4年度の就学前施設の保育者と小学校の教員との交流時期及び内容を検討しました。



国立市幼保小
連携推進委員会の様子